

【香川県高松市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	香川県高松市
担当課名	保健体育課
電話番号	087-839-2657

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	420,545人	部活動数	361部活
公立中学校校数	24校 (分校2校含む)	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	10,673人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状について】

高松市における運動部活動の現状については、2つの分校および島しょ部の1校を除く21校で運動部活動が設置されており、学校規模による差異はあるが、平均すると1校当たり17~18の部活動が設置されている状況である。

本市の生徒数は、前年度から250人を超える減少があり、第1学年と第2学年を対象とした、新人体育大会での団体競技において、10校10チームが合同チームとして、また、7校8チームが出場最低人数による単独校チームとして大会に参加する状況であった。

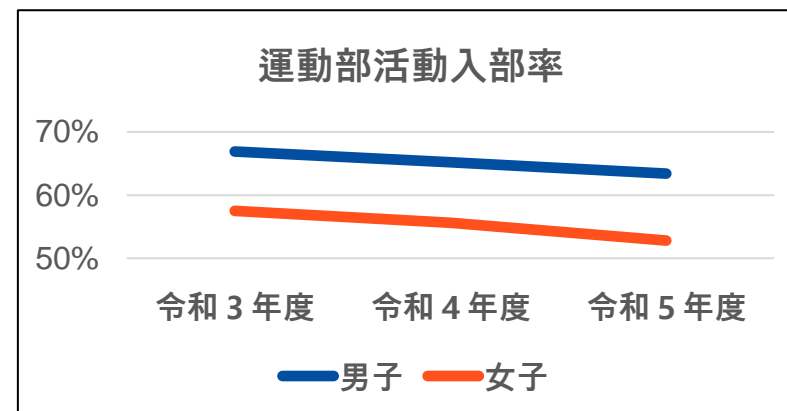
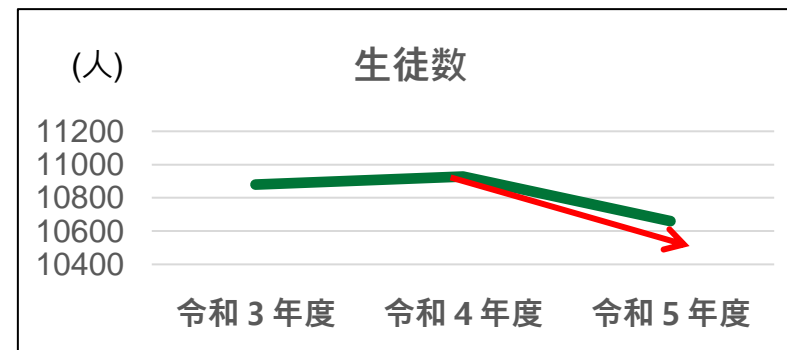
更に、10月に実施した部活動等に関するアンケート調査の結果からは、部活動指導に負担を感じている教職員が60%おり、教職員だけの部活動指導に限界が生じてきた学校も増加傾向にある。

【課題について】

本市の部活動地域移行に関する主な課題としては、

- ① 学校数や設置する部活動数が多いこと
- ② 外部人材による指導者の確保が困難であること
- ③ 運営主体となる受け皿が不足していること

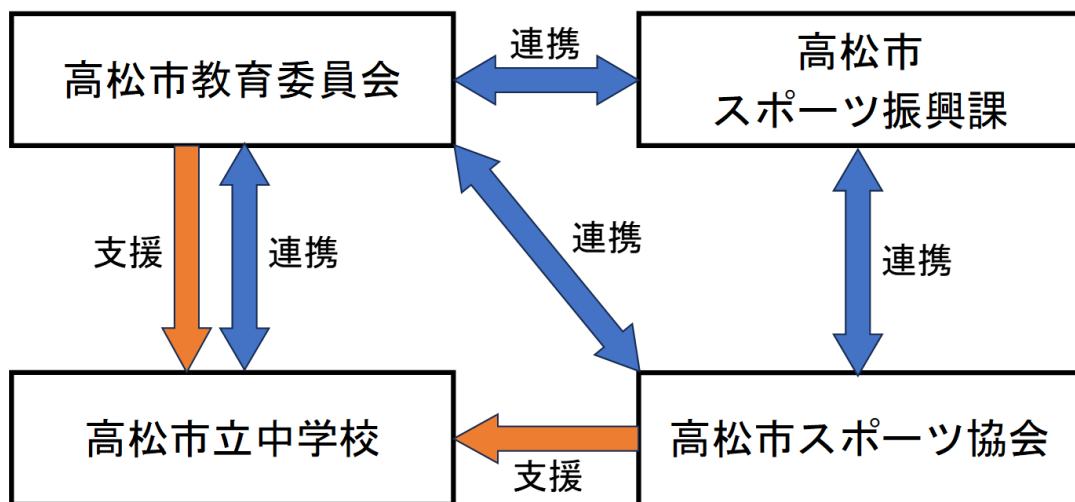
以上の3点があり、地域移行を進めていくにも、一定の期間が必要であると考えられる。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（保健体育課）
 - ・部活動の実態調査
 - ・部活動アンケート
 - ・教員の兼職兼業検証
 - ・地域指導者（部活動指導員）の配置 等
- **創造都市推進局**（スポーツ振興課）
 - ・指導者研修システムの構築
 - ・学校体育施設活用の検討 等
- **外郭団体**（スポーツ協会）
 - ・指導者派遣
 - ・体育施設活用の協力 等

年間の事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
実証事業①	対象校への事業説明等			開催準備・関係者連携		実証期間								
実証事業②	対象校への事業説明等			開催準備・関係者連携			実証期間							
実証事業③	開催方法・実施内容等調整			案内・募集	実証期間									
全体	関係団体との連携 随時													
				アンケート			検討委員会①		検討委員会②					

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

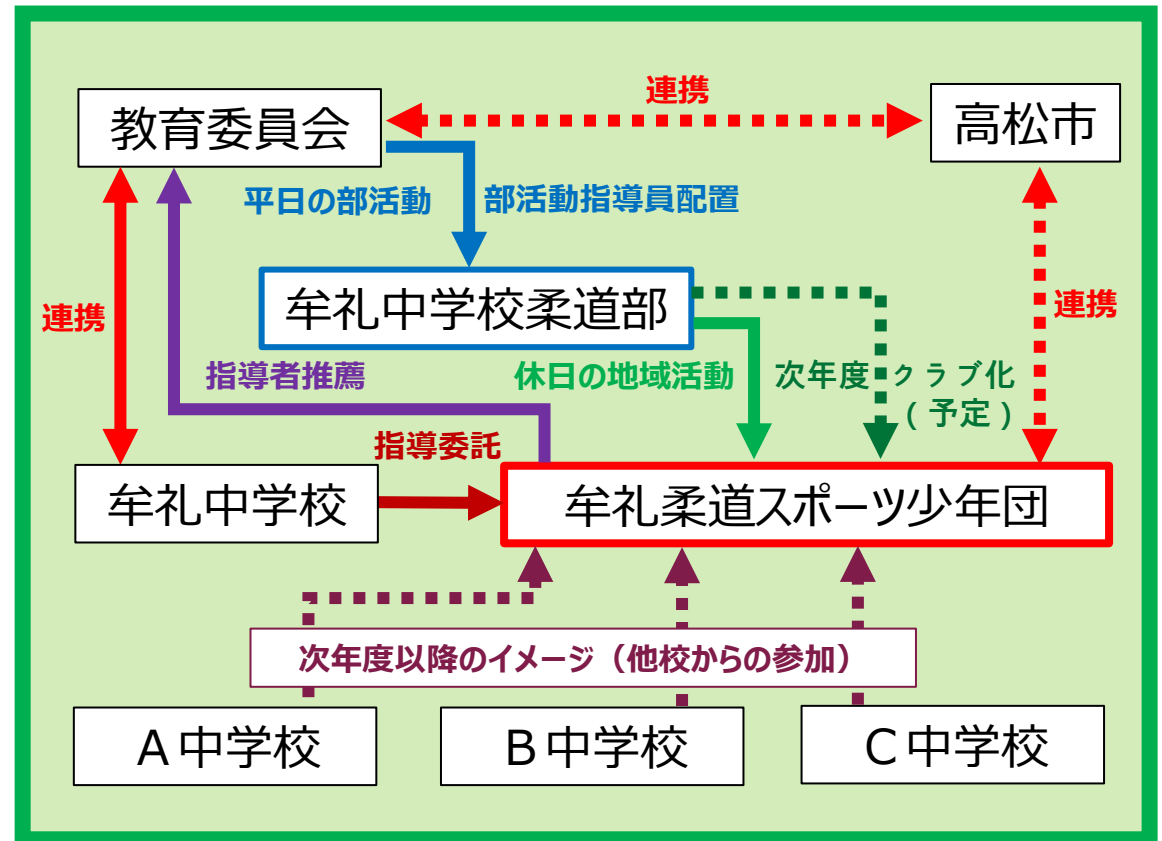
拠点校数	3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	軟式野球、柔道、ダンス
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	3部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	牟礼中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営主体名	牟礼柔道スポーツ少年団
運営類型	民間スポーツ事業者運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	月20回程度 ※部活動ガイドライン
指導者の主な属性	休日：地域指導者、平日：部活動指導員
活動場所	学校の体育施設（武道場）
主な移動手段	徒歩及び自転車 ※遠征等は保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	約40,000円 ※遠征等の頻度で前後あり
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

取組内容

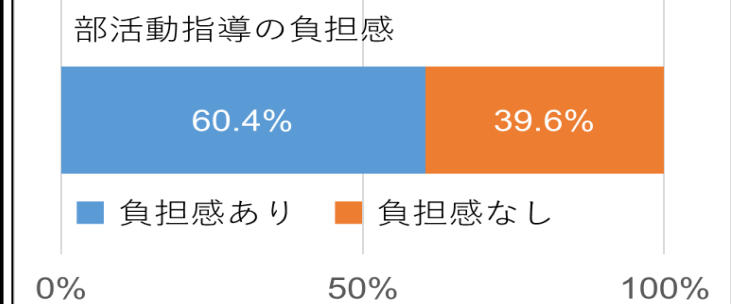
▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ①高松市地域部活動検討委員会
- ②高松市中学校校長会での説明
- ③関係者（実施校の保護者、高松市スポーツ協会、高松市スポーツ振興課など）との連絡会
- ④高松市部活動等調査 など

取組の成果

- ・上記の取組①については、有識者や関係委員から、取り組みに対する客観的な意見をもらうことができ、事業の軌道修正や方向性の転換などを行うことができました。
- ・上記の取組④については、1・2年生を対象としたアンケートを行い、生徒・保護者・教職員を合わせた約1万人からの情報を収集することができた。生徒・保護者の回答は、ほぼ同様の結果であり、現時点においては、学校の部活動に対する満足度が高い傾向にあった。しかしながら、教職員の回答では、約60%の者が部活動指導に負担を感じている結果であった。



特に工夫した事項

- ・上記の取組④については、WEB上でのアンケート方式で行った。
- ・生徒と教職員については、1人1台端末として配付されたタブレットPC及び、公務用PCを活用して、在校時間内に回答するよう指定した。
- ・任意回答としていたが、調査期間内に校長会からのアナウンスによる協力もあり、生徒が約70%、教職員が約60%と高い回答率を得ることができた。
- ・保護者については、該当学年に複数の子供がいる場合は、年長者1人を対象とした回答としたため、回答率を算出することはできなかった。

今後の課題と対応方針

- ・当事業を活用したモデル事業を展開していくことで、ある程度の本市としての課題を発見することは達成できたのではないかと捉えている。しかしながら、地域移行に向けた取組状況としては、現時点において「点」での取組に終わっている状況であることは否めない。今後は、主たる連携者となる創造都市推進局の関係課やスポーツ協会等との連携を密にして、「点」と「点」を繋ぎ合わせていきたい。

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ①事業前研修
- ②事業中の視察及び改善点等の打ち合わせ等
- ③指定研修等の計画
- ④人材バンク等の活用

取組の成果

- ・上記の取組①及び②については、全ての実証事業で行うことができた。実施したモデル事業は、初の試みとなるものばかりであったが、大きなトラブルもなく開始することができたのは、個々の指導者と事前研修できたことが大きく影響したのではないかと捉えている。
- ・上記の取組③については、中学生を指導する指導者の質を確保していく上でも、協会登録と研修を義務化していこうとする計画もあった。しかし、登録費用が掛かることや研修の日程・方法等々、指導者側との合意に至らず実施することはできなかった。
- ・上記の取組④については、県が県内全市町を対象とするプラットフォーム（人材バンク）を構築中。

特に工夫した事項

- ・事業前に行った保護者説明会において、馴染みのない指導者が、子どもたちの指導に加わってくることは、活動体制への影響が及んでしまうのではないかと不安視する保護者は多かった。
- ・このような課題もあったため、事業中の統括責任者は教育委員会が行うこととし、活動の視察において関係者への聞き取り等を実施した。
- ・指導者として依頼した方の中には、初めて該当生徒の指導に携わる方もいたため、指導で知り得た個人情報等の取り扱いに対する研修は念入りに行った。

今後の課題と対応方針

- ・事業の成果や課題を踏まえた上ではあるが、クラブ活動として地域の指導者が中学生を指導していくのであれば、質を保証する上でも研修を義務付けていくことは重要であると捉えている。
- ・首長部局の関係課やスポーツ協会等とも連携を図りながら、本市としての研修制度の確立に努め、指導者の質を保証していきたい。

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ①高松市地域部活動検討委員会 ※令和4年9月に有識者はじめ、スポーツ・文化関係者で構成した委員会を設置
- ②高松市の連絡委員会（TASCR委員会）による連携 ※令和2年11月に高松市のスポーツ関係者で構成した委員会を設置
- ③創造都市推進局関係課（スポーツ振興課）や（公財）高松市スポーツ協会との連携
- ④学校関係者（高松市中学校長会）との連携

取組の成果

- ・上記の取組①については、本市の部活動の地域移行に関する中枢的委員会であり、令和4年度以降、年2回の頻度で各委員からの意見をいただきながら、地域移行の方向性を探っている。
- ・上記の取組②については、年2～3回開催して情報共有していたが、令和4年度以降、①の委員会にシフトチェンジしてきてきたため、5年度は実施しなかった。
- ・上記の③については、②の開催がなくなったことで、適宜連携を図りながら、地域移行に関する情報共有を行った。

特に工夫した事項

- ・限られた回数・時間の中での会議となるため、一人でも多くの方から意見をいただけるよう、委員長には事前打ち合わせを行った。
- ・可能であれば、各委員にも資料等の事前配付を行った上で会議に臨んでもらえるよう心掛けた。
- ・上記の取組①～④以外との連携として、③との連携から紹介していただいた地域関係者（地元の商工会など）とも連携を図った。地域でのスポーツ機会を知ることが、地域移行に向けた取組の幅を広げていききっかけとなった。

今後の課題と対応方針

- ・学校部活動を地域へと移行していくことについては、学校の実態や地域の実情を鑑みると、避けることのできない重要課題であると捉えている。現時点においては、上記の取組事項に示した関係者との連携が情報共有に留まっており、具体的な取組を模索している状況である。
- ・受け皿を確保していくには、地域実態を詳細に把握する必要があるため、次年度以降は、地域実態の調査も注力していきたい。

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ①既存団体活用モデルの検証 ※柔道で実施
- ②地域人材活用モデルの検証 ※軟式野球で実施
- ③市主催モデルの検証 ※ダンス（ストリートダンス）で実施

令和5年度は全て国の補助事業を活用

取組の成果

- ※下記の金額は、今年度の上記事業で掛かった必要経費(指導者謝金+交通費+会場費等)を、参加者数(延べ数)で除したものである。
- ※同事業においては、全て国の補助事業を活用しているため、受益者負担はなかったが、1回あたりの参加費の目安とするため、便宜上算出しているものである。
- ・上記の取組①～③における1回あたりの参加費は以下の通り
 - 取組①・・・1,000円/回、取組②・・・1,355円/回、取組③・・・1,100円/回
- ※なお、保険料は、上記金額に別途850円(スポーツ安全保険)掛かっている。

	実施回数	指導者 延数	参加者 延数	必要経費 総額	1回あたり の参加費
柔道	17	23	255	255,000	1,000
野球	22	80	465	630,000	1,355
ダンス	7	7	50	55,000	1,100

特に工夫した事項

- 上記の取組①～③は、市のモデル事業として実施したため、以下の対応が得られた。
- ・取組①については、スポーツ少年団を受け皿として実施した。通常、近隣の公共体育施設を利用した活動を行うものであるが、中学校の体育施設を使用できるようにしたことで、施設使用料を大幅に削減することができた。
 - ・上記の取組③については、参加者の人数によって、使用する施設を変更した。使用した施設は、市が所管する施設を活用したため、使用料が減免されたことは大きかった。

今後の課題と対応方針

- ・現時点においては、国の補助事業を活用したモデル事業として検証しているため、参加者からの金銭的な負担が伴わないようにしている。次年度以降は、上記の算出した金額等も踏まえた上で、受益者負担の額の設定や負担軽減を図る方策等について、検証していくことが必要である。

2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

①既存団体活用モデルの検証 ※柔道で実施

取組の成果

- ・上記の取組①については、スポーツ少年団を受け皿として実施した。同少年団は、通常、近隣の公共体育施設を利用した活動を行うものであるが、中学校の体育施設（武道場）を使用できるようにしたことで、施設使用料を大幅に削減することができた。
- ・また、競技の特性上、武道場という専用施設での活動となるため、学校が設置する他の部活動と会場を調整する必要がなかったことも大きな要因であり、学校体育施設の競技・種目別の専用化は、施設調整等のヒントとなった。

特に工夫した事項

- ・施設の鍵管理については、近隣の公共体育施設の事務所において、中学校の体育施設（武道場）の鍵が管理されていることから、その施設が開場している利用時間内であれば、教員が不在であっても、上記①の団体が学校体育施設を活用することができた。
- ・学校施設を大幅に改修せずとも、外部団体が利用することのできる方策のヒントとなった。

今後の課題と対応方針

- ・本市の学校部活動の現状は、設置されている部活動数が多いため、学校施設を地域クラブ等の活動場所として提供できる状況とはなっていない。公共の体育施設を利用するにも限界があり、学校施設を活用できるように進めていくことは不可欠である。
- ・また、本市では、夜間に一般市民にも施設開放している学校が多くあるため、創造都市推進局の関係課とも連携した取組が急務である。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

3-(2)学校部活動の現状

R5年度の高松地区新人体育大会 団体競技の参加状況

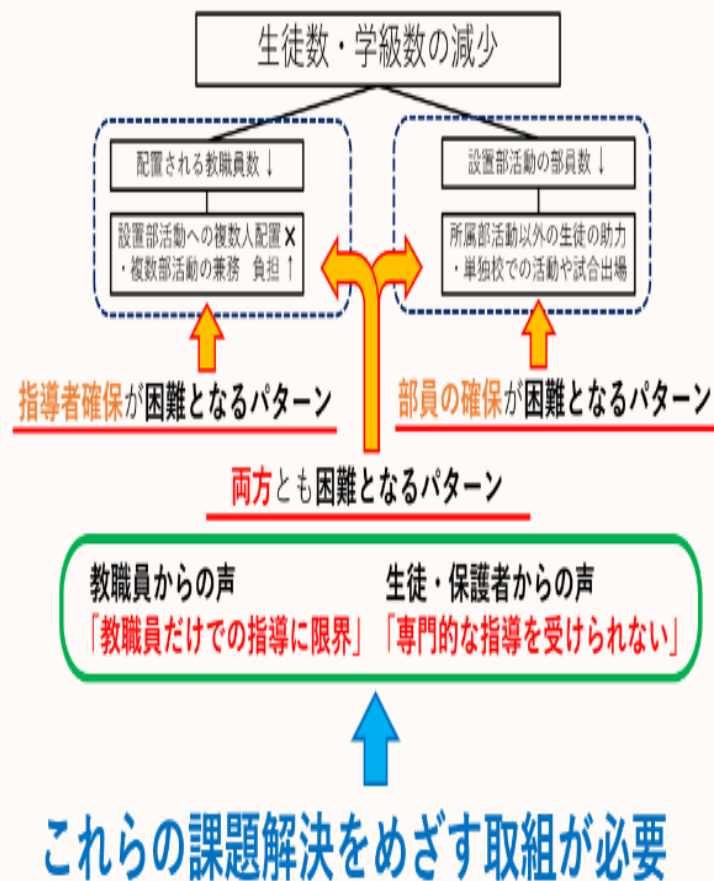
	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	K校	L校	M校	N校	O校	P校	Q校	R校	S校	T校	U校	V校
サッカー	25	20	16	5	15	30	38	23	12	24	0	0	13	22	22	34	0	18	0	8	10	24
軟式野球	18	14	17	10	13	18	18	15	5	18	3	0	11	13	12	14	0	12	0	13	0	12
ソフト（女子）	9	0	0	0	0	12	16	5	0	13	0	0	0	9	10	17	0	0	0	0	0	17
バスケ（男子）	14	16	16	8	9	16	16	11	8	15	5	0	15	16	16	16	0	14	0	15	0	16
バスケ（女子）	9	9	14	10	0	16	16	12	10	9	6	0	16	14	7	15	0	12	0	6	0	12
ハンド（男子）	15	15	0	0	0	0	15	15	0	15	0	0	15	0	15	0	1	0	0	14	0	0
ハンド（女子）	2	3	0	0	0	0	15	14	0	12	0	0	13	0	11	0	7	0	0	0	0	0
バレー（男子）	12	13	0	0	6	0	13	0	11	0	10	0	13	0	0	13	0	1	7	13	0	12
バレー（女子）	13	10	3	6	10	13	12	13	13	13	6	0	13	13	12	13	0	7	9	13	6	13

※ …合同チームで出場 …部員数が2チーム未満

12

3-(2)学校部活動の現状

これまでの取組を踏まえた学校部活動における課題



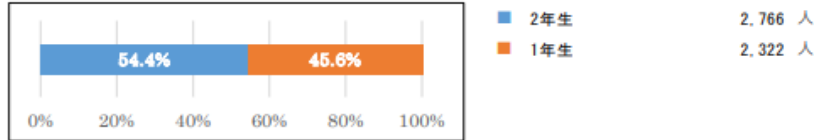
14

2. 実証内容と成果

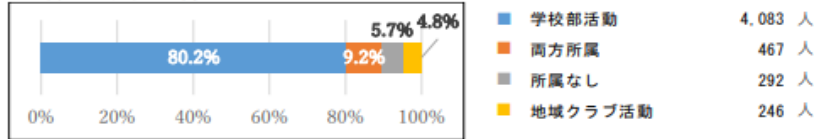
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

R5 部活動等調査【生徒 回答結果】

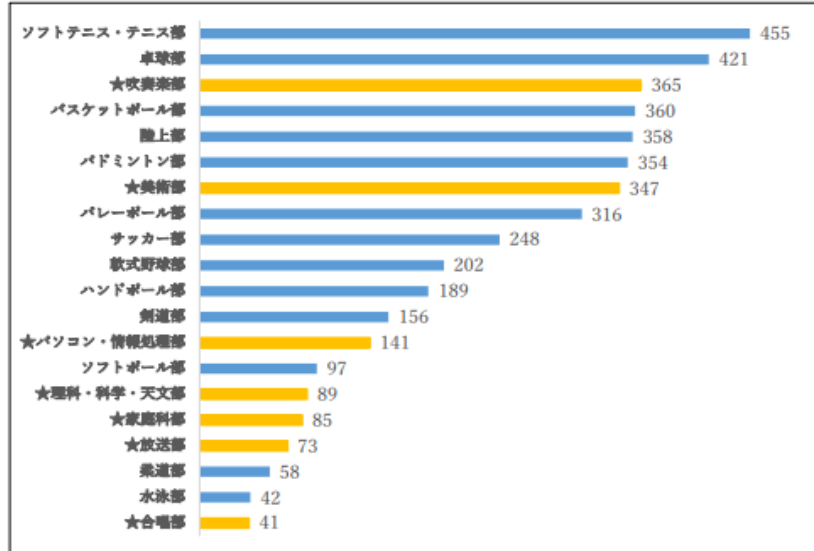
1. 学年



2. 課外活動等の所属先



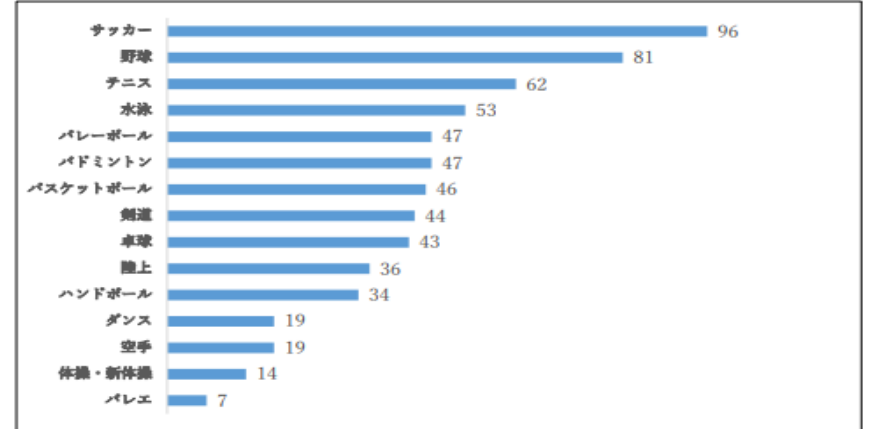
3. 所属部活動（上位20）



※ アンケート調査に回答した生徒を基にグラフ化していますので、実際の所属人数とは異なります。

※ ★印は文化部活動

4. 所属地域クラブ活動（上位15）

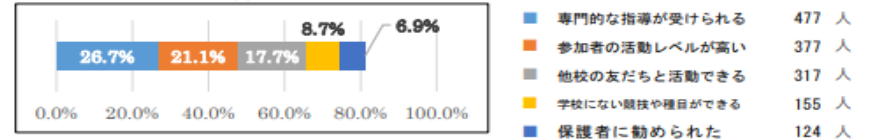


※ 野球（軟式・硬式）、テニス（ソフト・硬式）

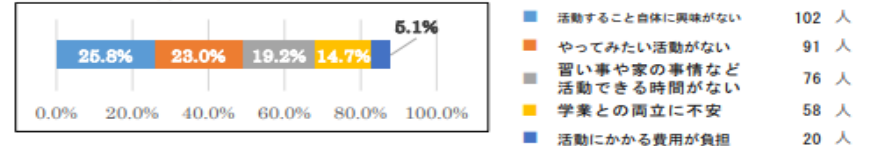
5. 部活動に所属している理由（上位5）



6. 地域クラブ活動に所属している理由（上位5）



7. どこにも所属していない理由（上位5）



生徒の回答

【高松市部活動等調査結果の抜粋】

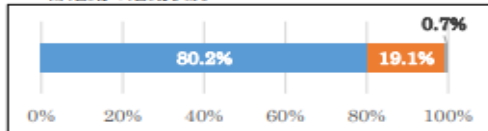
<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokokai/fuzoku/fuzoku/ruiji/kyouiku/tiikibukatu0409.files/r5seitoannketo.pdf>

生徒の回答

2. 実証内容と成果

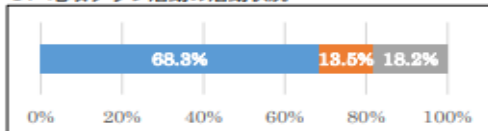
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

8. 部活動の活動状況



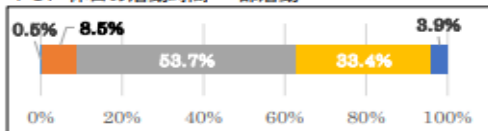
平日も休日も参加	3,648 人
平日のみ参加	871 人
休日のみ参加	31 人

9. 地域クラブ活動の活動状況



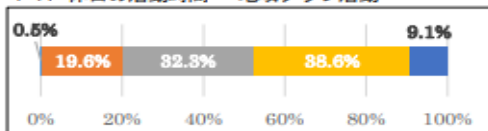
平日も休日も活動	487 人
平日のみ活動	96 人
休日のみ活動	130 人

10. 休日の活動時間…部活動



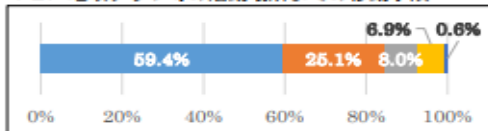
1時間未満	20 人
1時間以上2時間未満	314 人
2時間以上3時間未満	1,976 人
3時間以上	1,227 人
決まっていない	142 人

11. 休日の活動時間…地域クラブ活動



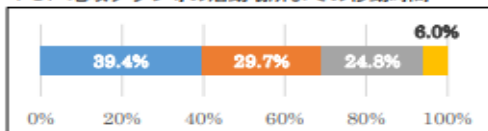
1時間未満	3 人
1時間以上2時間未満	121 人
2時間以上3時間未満	199 人
3時間以上	238 人
決まっていない	56 人

12. 地域クラブ等の活動場所までの移動手段



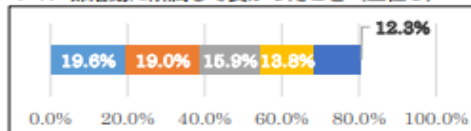
車(保護者の送迎)	550 人
自転車	232 人
徒歩	74 人
電車やバス	64 人
その他	6 人

13. 地域クラブ等の活動場所までの移動時間



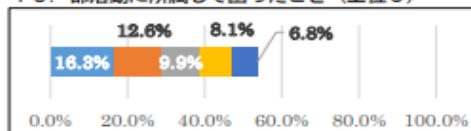
15分以上30分未満	281 人
15分未満	212 人
30分以上1時間未満	177 人
1時間以上	43 人

14. 部活動に所属して良かったこと(上位5)



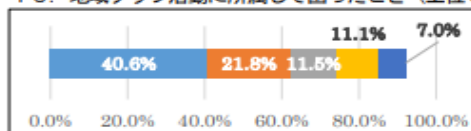
友だちができた	3,382 人
活動が楽しい	3,279 人
技能が上達した	2,745 人
体力がついた	2,371 人
勝つことの喜びを知った	2,118 人

15. 部活動に所属して困ったこと(上位5)



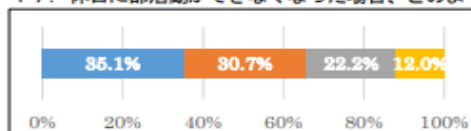
学業との両立	1,454 人
生徒同士の人間関係	1,125 人
活動場所がせまい	889 人
活動時間が短い	726 人
活動日数が多い	610 人

16. 地域クラブ活動に所属して困ったこと(上位5)



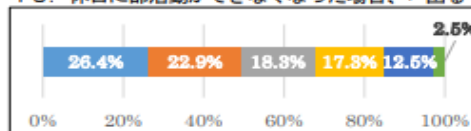
特になし	387 人
テスト期間中も活動	208 人
時間が遅い(夜の活動)	110 人
活動場所までの移動	106 人
活動費用(月謝など)	67 人

17. 休日に部活動ができなくなった場合、どのように思うか…部活動所属者



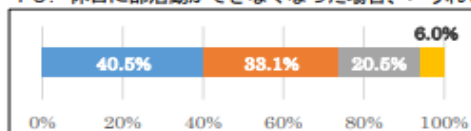
困る	1,595 人
何も思わない	1,396 人
うれしい	1,012 人
分からない	547 人

18. 休日に部活動ができなくなった場合、「困る」理由



個人技能の上達に影響	1,143 人
チーム技能の上達に影響	991 人
大会等に出場できない	794 人
部活動の友だちに会えない	747 人
休日にすることがない	543 人
その他	109 人

19. 休日に部活動ができなくなった場合、「うれしい」理由



好きなことができる	807 人
休養することができる	661 人
家族と過ごす時間が増える	408 人
その他	119 人

生徒の回答

【高松市部活動等調査結果の抜粋】

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokokai/fuzoku/fuzoku/ruiji/kyouiku/tiikbukatu0409.files/r5seitoannketo.pdf>

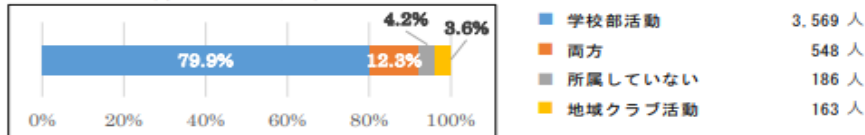
生徒の回答

2. 実証内容と成果

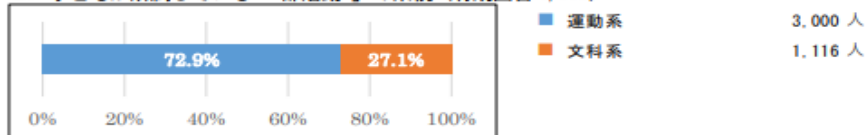
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

R 5 部活動等調査【保護者 回答結果】

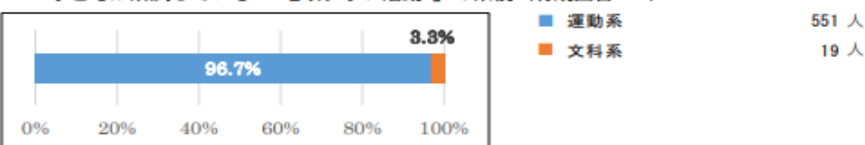
1. 子どもが所属している活動団体



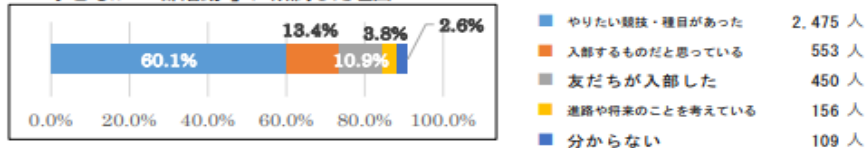
2. 子どもが所属している「部活動」の系統（有効回答4,116）



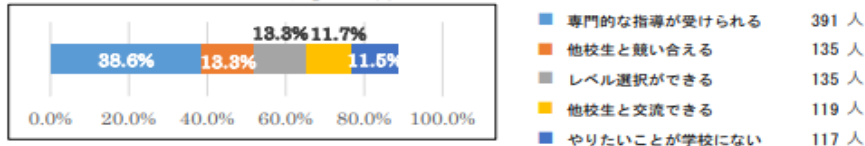
3. 子どもが所属している「地域クラブ活動」の系統（有効回答570）



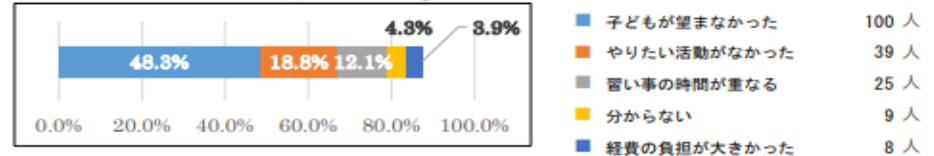
4. 子どもが「部活動」に所属した理由



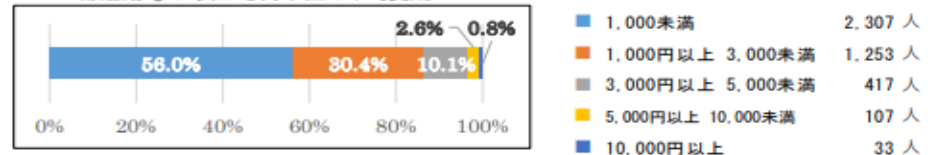
5. 子どもが「地域クラブ活動」に所属した理由



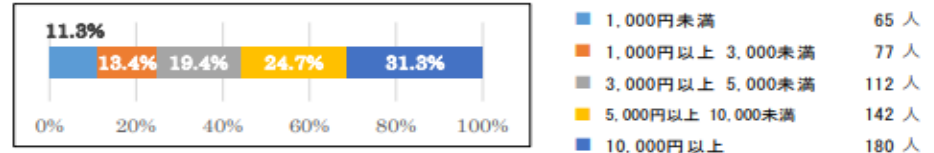
6. 子どもが「どこにも所属していない」理由（上位5）



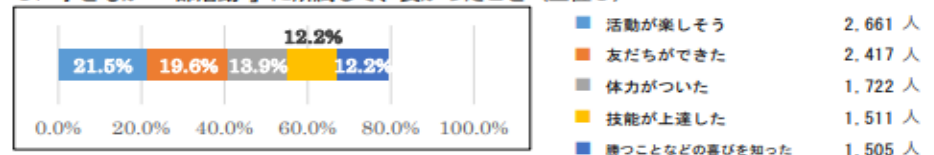
7. 「部活動」に掛かる月単位の平均費用



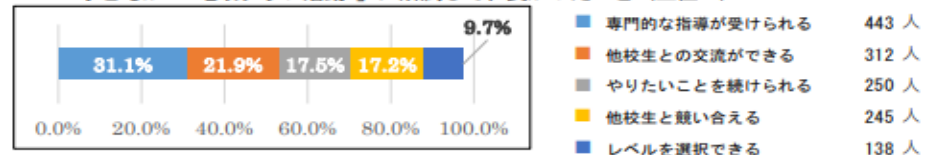
8. 「地域クラブ活動」に掛かる月単位の平均費用



9. 子どもが「部活動」に所属して、良かったこと（上位5）



10. 子どもが「地域クラブ活動」に所属して、良かったこと（上位5）



保護者の回答

【高松市部活動等調査結果の抜粋】

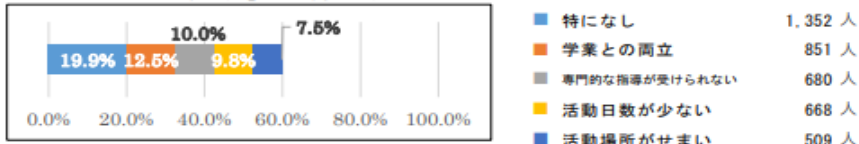
<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokokai/fuzoku/fuzoku/ruiji/kyouiku/tiikibukatu0409.files/r5hogosyaannketo.pdf>

保護者の回答

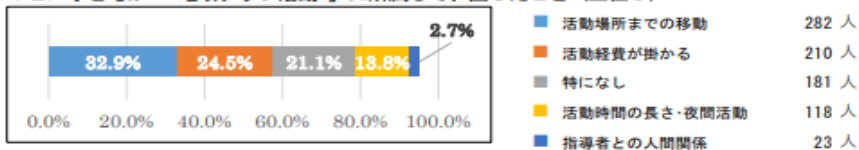
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

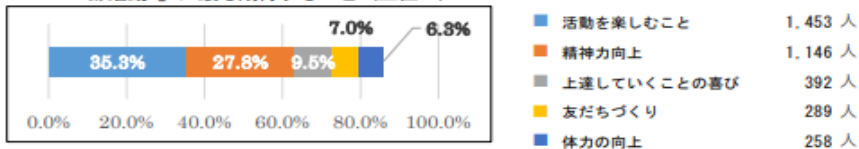
11. 子どもが「部活動」に所属して、困ったこと（上位5）



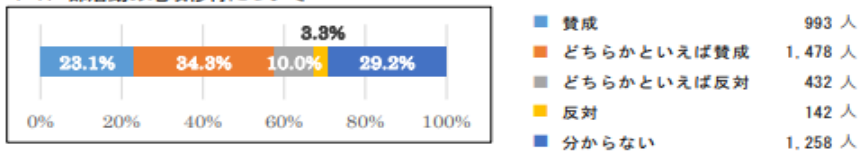
12. 子どもが「地域クラブ活動」に所属して、困ったこと（上位5）



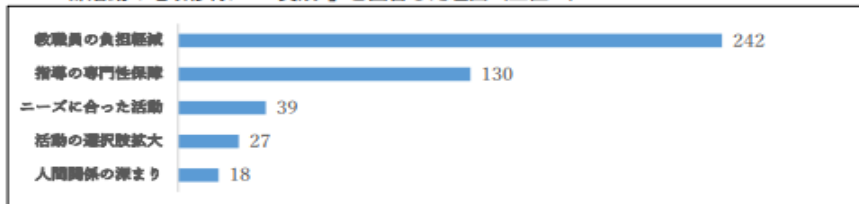
13. 「部活動」に最も期待すること（上位5）



14. 部活動の地域移行について



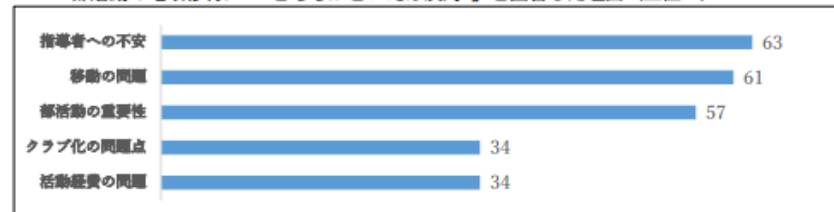
15. 部活動の地域移行に「賛成」と回答した理由（上位5）



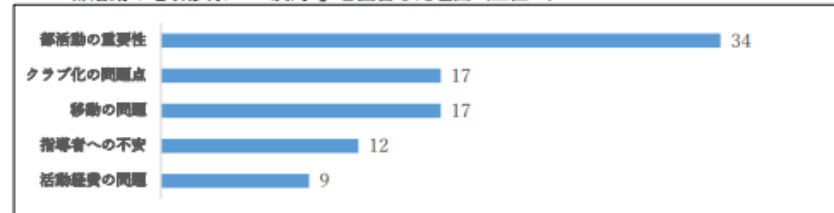
16. 部活動の地域移行に「どちらかといえば賛成」と回答した理由（上位5）



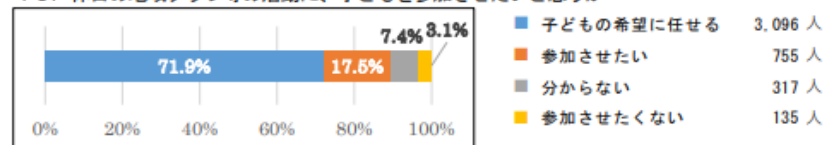
17. 部活動の地域移行に「どちらかといえば反対」と回答した理由（上位5）



18. 部活動の地域移行に「反対」と回答した理由（上位5）



19. 休日の地域クラブ等の活動に、子どもを参加させたいと思うか



保護者の回答

【高松市部活動等調査結果の抜粋】

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokokai/fuzoku/fuzoku/ruiji/kyouiku/tiikibukatu0409.files/r5hogosyaannketo.pdf>

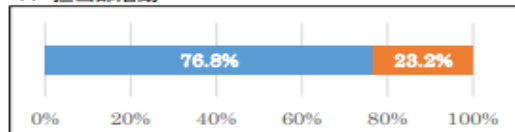
保護者の回答

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

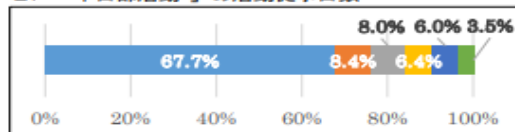
R 5 部活動等調査【教職員 回答結果】

1. 担当部活動



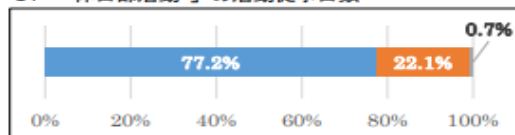
運動部顧問	334 人
文化部顧問	101 人

2. 「平日部活動」の活動従事日数



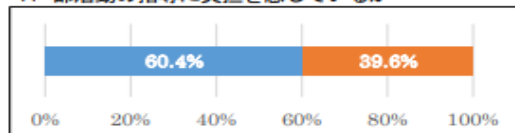
4日	306 人
3日	38 人
0日	36 人
2日	29 人
5日	27 人
1日	16 人

3. 「休日部活動」の活動従事日数



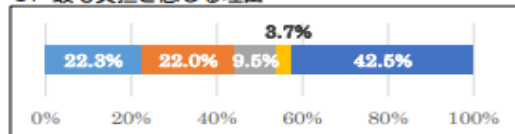
1日	349 人
0日	100 人
2日	3 人

4. 部活動の指導に負担を感じているか



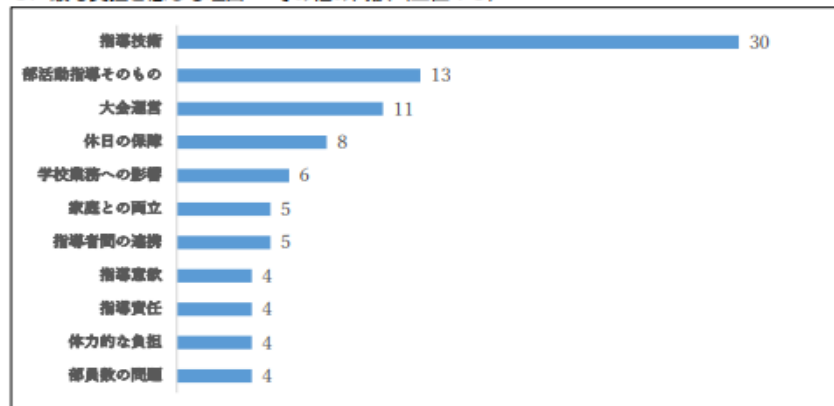
はい	273 人
いいえ	179 人

5. 最も負担と感じる理由

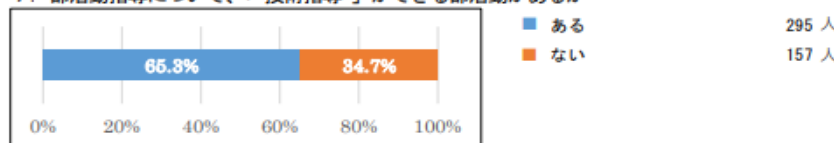


活動時間が長い	61 人
活動回数が多い	60 人
保護者や地域の期待	26 人
指導結果	10 人
その他	116 人

6. 最も負担と感じる理由…その他の内訳（上位10）

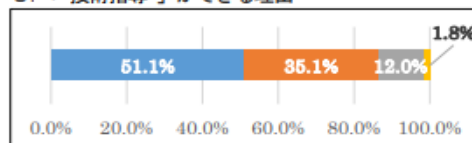


7. 部活動指導について、「技術指導」ができる部活動があるか



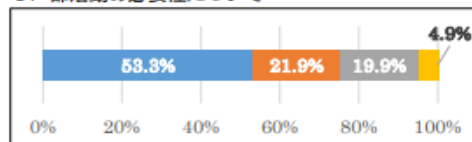
ある	295 人
ない	157 人

8. 「技術指導」ができる理由



活動経験がある	256 人
指導経験がある	176 人
指導資格を持っている	60 人
その他	9 人

9. 部活動の必要性について



一定の必要性はある	241 人
必要性をあまり感じない	99 人
教育的意義があり必要性は高い	90 人
その他	22 人

教職員の回答

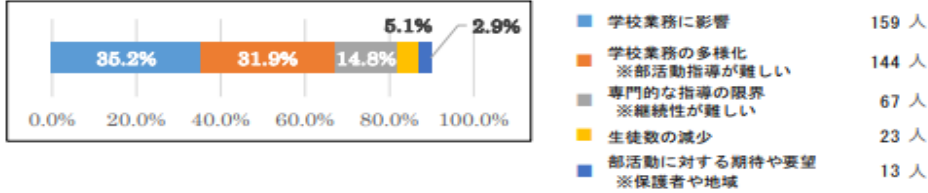
【高松市部活動等調査結果の抜粋】

教職員の回答

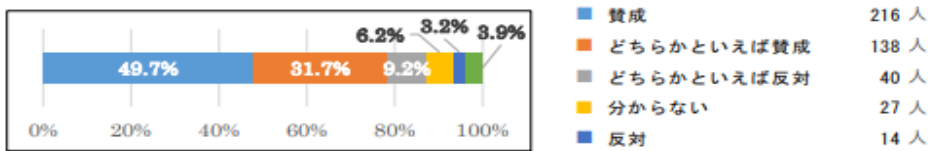
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

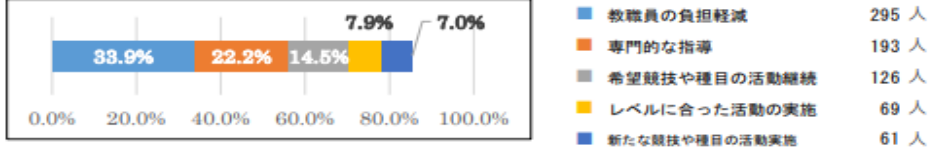
10. 部活動の最も大きな課題と捉えているもの（上位5）



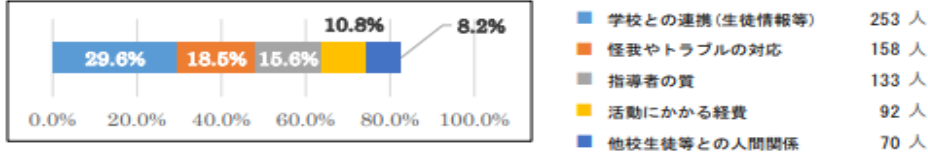
11. 部活動の地域移行について



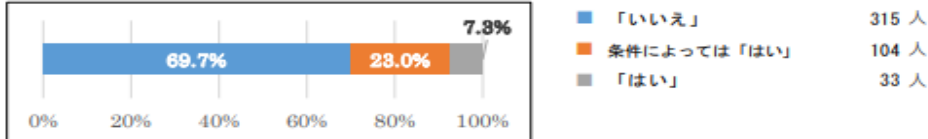
12. 部活動の地域移行について、「期待」すること（上位5）



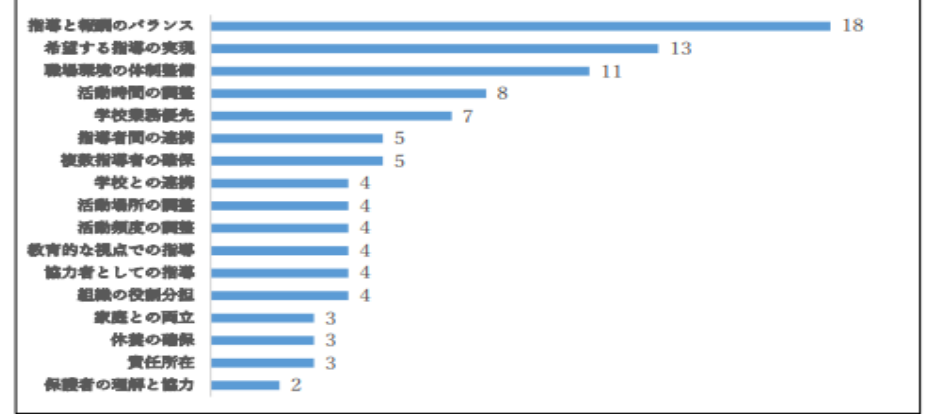
13. 部活動の地域移行について、「心配」すること（上位5）



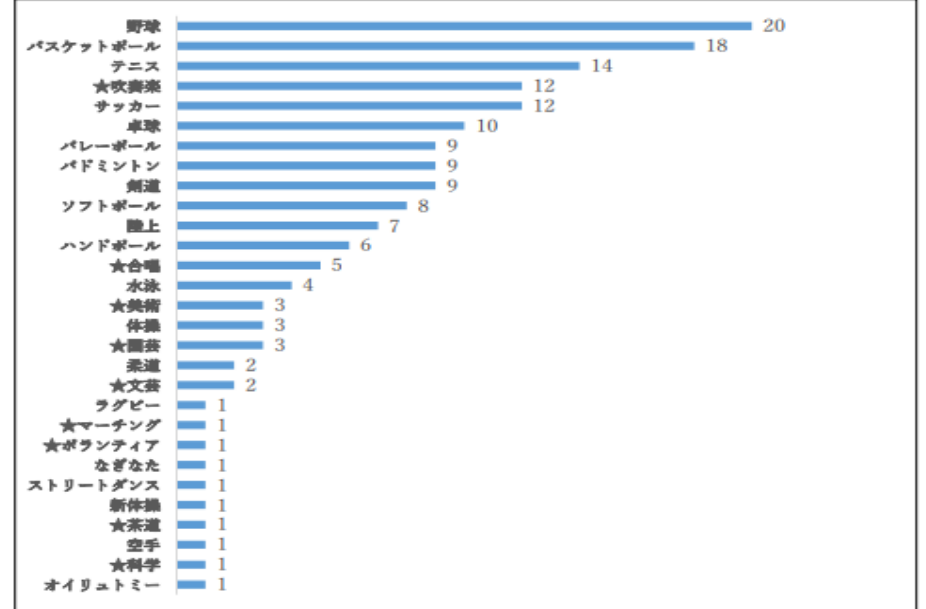
14. 地域クラブ活動の指導者として指導に関わりたいか



15. どのような条件が満たされれば、地域クラブ活動の指導に関わることができるかと思うか



16. 地域クラブ活動の指導に関わることでできる競技・種目



※ ★印は「文化・芸術」

教職員の回答

【高松市部活動等調査結果の抜粋】

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/johokoka/i/fuzoku/fuzoku/ruiji/kyouiku/tiikibukatu0409.files/r5kyouinanketo.pdf>

教職員の回答

・ 2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【実証事業① 既存団体活用モデル事業（柔道）】



【実証事業② 地域人材活用モデル事業（軟式野球）】



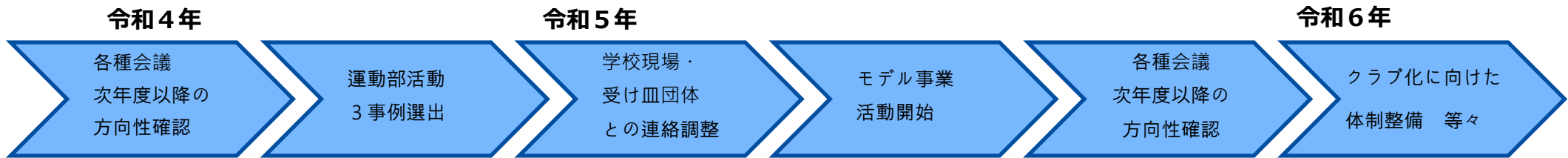
【実証事業③ 市主催モデル事業（ストリートダンス）】



【高松市部活動地域移行検討委員会の様子】

・ 2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

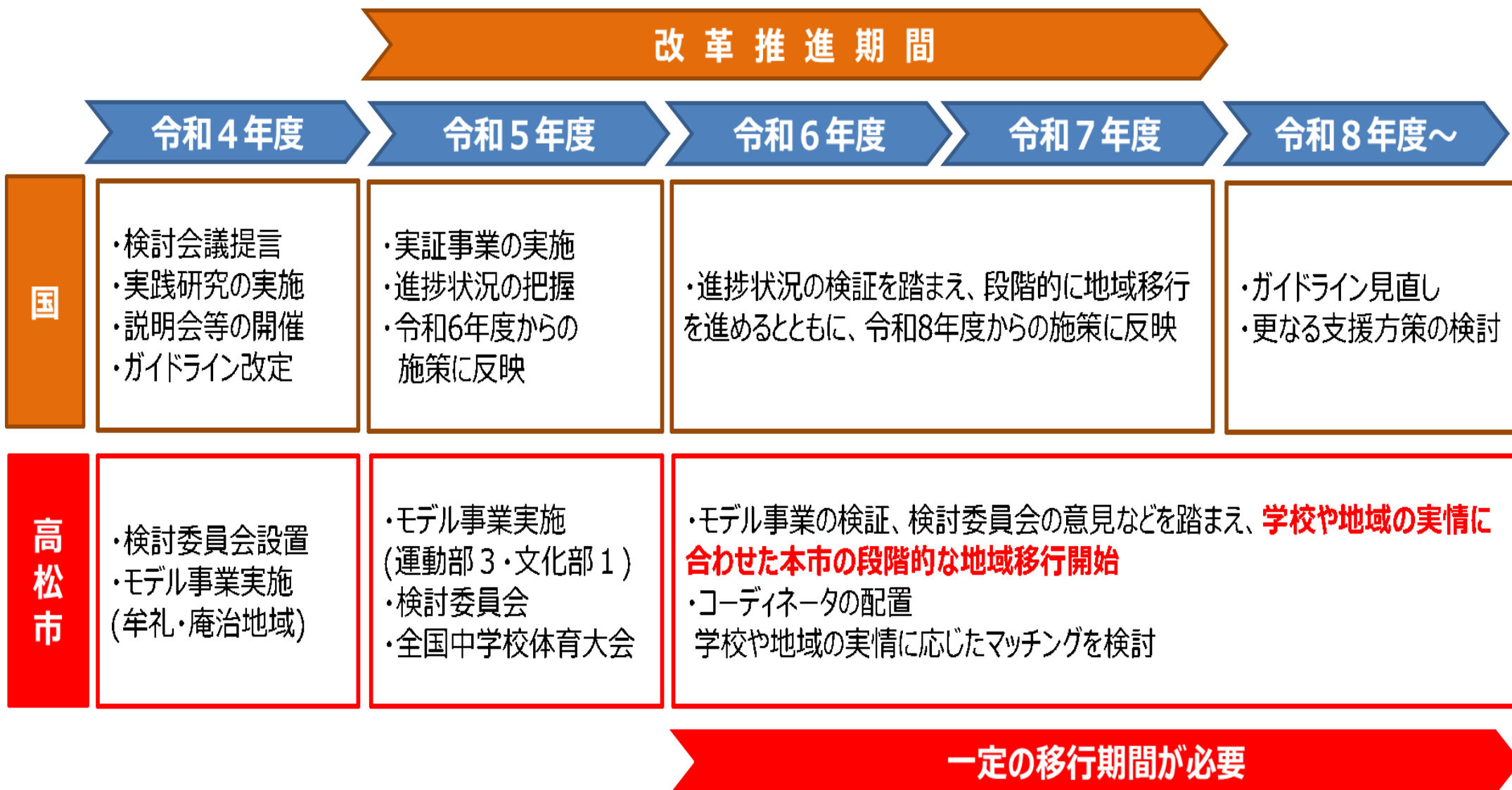


- 実証事業①・・・ 牟礼柔道スポーツ少年団（既存団体活用モデル）
- 団体の概要・・・上記のスポーツ少年団は、1973年に結成された歴史ある団体であり、これまでも数多くの活動実績を残してきた。この少年団の卒団生が大人となり、また少年団の指導者として戻ってくるなど、持続性の高い活動団体である。
- 実施内容・・・ 現在、この少年団がある地元の中学校には、柔道部が設置されており、卒団生と中学校から新規に入部してきた生徒が混在した部活動として実施されている。教職員の顧問が配置されているが、専門指導が難しいことから、同少年団から指導者を1人派遣してもらい、平日の部活動を行っている。休日の活動については、少年団が受け皿となり、同校柔道部の活動を行うモデルとして検証することとした。学校の部活動から地域の活動へと移行していく際の課題（指導者、活動場所、学校との連携など）について検証を行った。
 1. 指導者については、同一団体から指導者を分担（平日と休日）していただけたので、指導方針のズレがなかった。また、平日の部活動については、部活動指導員として配置できたことで、教職員の顧問が従事しなくとも活動することができた。
 2. 活動場所については、柔道の競技性（武道場の使用）上、他の部活動と競合することがなかったこともあり、学校施設の利用がスムーズであった。
 3. 次年度以降、学校管理下から外れたクラブ化を検討しており、他校からの参加者も増えてくることが予想される。学校施設利用の連絡調整もそうだが、今後、参加してくる学校との連携手段等を検証していく必要性がある。

- 実証事業③・・・ 高松市教育委員会（市主催モデル）
- 活動の概要・・・ 学校部活動に設置されていない競技・種目（ダンス）を対象として実施した。※子どもが行ってみたい運動・スポーツの最上位であることが、後のアンケートで判明。活動のコンセプトとしては、競技会などへの参加を目的とした活動を行うのではなく、運動そのものを楽しみ、誰もが気軽に参加できる活動をめざすものとして行った。
- 実施内容・・・ 学校の協力も得ながら、作成した募集チラシを配付した。チラシにQRコードを添付し、WEB上で募集を行った。活動場所は、学校外の施設を確保して、参加者の移動手段等について検証できるようにした。
 1. 募集方法等については、WEBでの申し込みとしたため、殺到した場合の対応も検討していたが、予想よりも参加者が少なかった。広報活動が不足していたことは否めないため、今後の課題として検討する必要がある。
 2. 駅近施設を選定したが、ほぼ保護者送迎の参加となっていたので、活動する曜日や時間帯を工夫する必要性がある。

・ 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



【香川県宇多津町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	香川県宇多津町
担当課名	生涯学習課
電話番号	0877-49-8007

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	人	部活動数	17部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	462人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	現在のところ策定なし

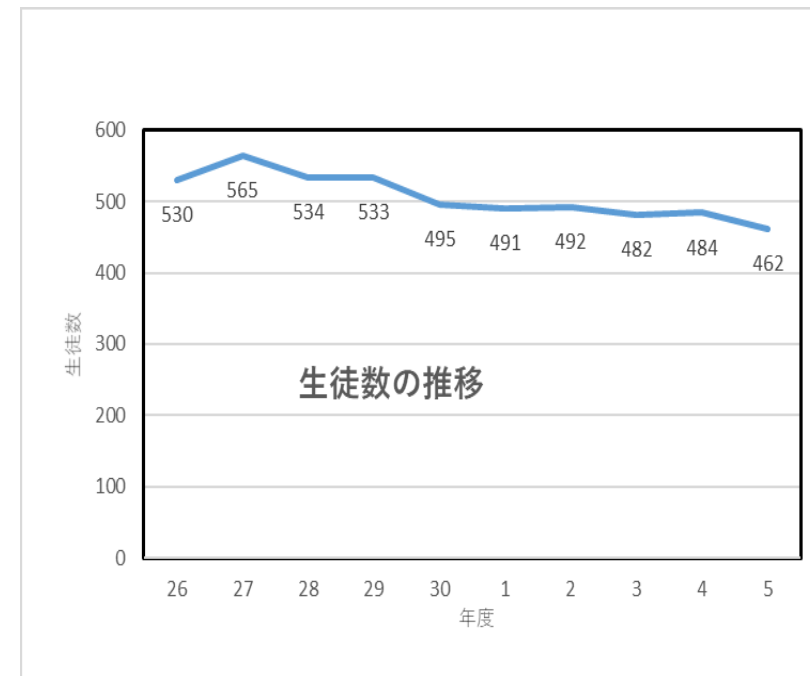
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

- ・宇多津中学校は、町内唯一の公立中学校である。
- ・生徒数は緩やかではあるが徐々に減少傾向にあり、生徒数に対して部活動数が多い。
- ・競技・指導経験のない種目の顧問も多くなっている状況である。
- ・子どもたちは、団体競技よりは個人競技への入部希望者が多く、部活動よりは家庭の時間を優先する傾向にある。
- ・種目によっては、人数が足りず、近隣の市町の中学校との合同チームを結成しているところもある。

【課題】

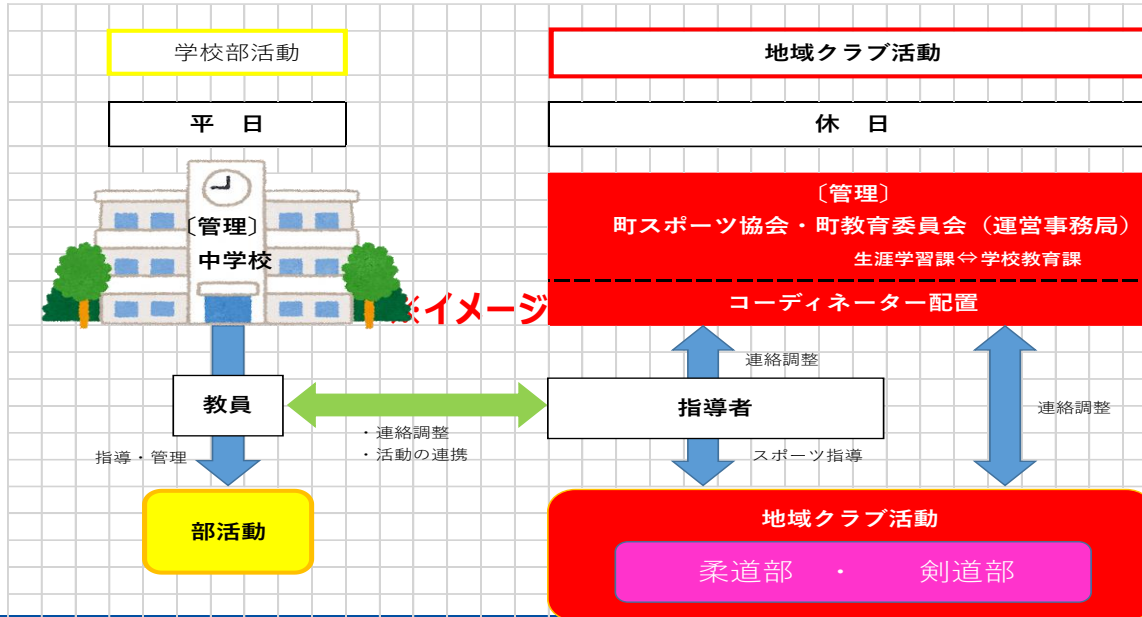
- ・今後、現状の部活動を維持・継続していくことは困難であるため、部活動数や運営方法等、考えていかなければならない。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（生涯学習課）**
コーディネーターを配置して、中学校や町内団体等と連携して、休日の地域移行モデルの構築を図る。
- **首長部局（総務課）**
部活動の休日の地域移行に向けた必要な予算を確保する。

年間の事業スケジュール

- 4月 柔道部・剣道部部活動地域移行に係る検討会
- 5月 柔道部・剣道部に対する保護者説明会 宇多津町部活動活動方針の改正 先進地域視察（東かがわ市）
- 6月 教師の兼職兼業手続きの様式を改正
- 7・8月 柔道部・剣道部見学 協議会の開催
- 9月 地域クラブ活動指導員人材バンク設置 柔道部・剣道部地域クラブ活動開始
- 10月 柔道部・剣道部部活動地域移行に係る検討会 柔道部・剣道部の部員に対するアンケート実施
- 11月 関係者へのヒアリング
- 12月 協議会の開催
- 1月 保護者・中学生へのアンケート
- 2月 スポーツ少年団との連携打合せ 柔道部・剣道部地域指導者から次年度へ向けて成果や課題等ヒアリング 事業完了報告書等作成
- 3月 協議会の開催

・ 2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

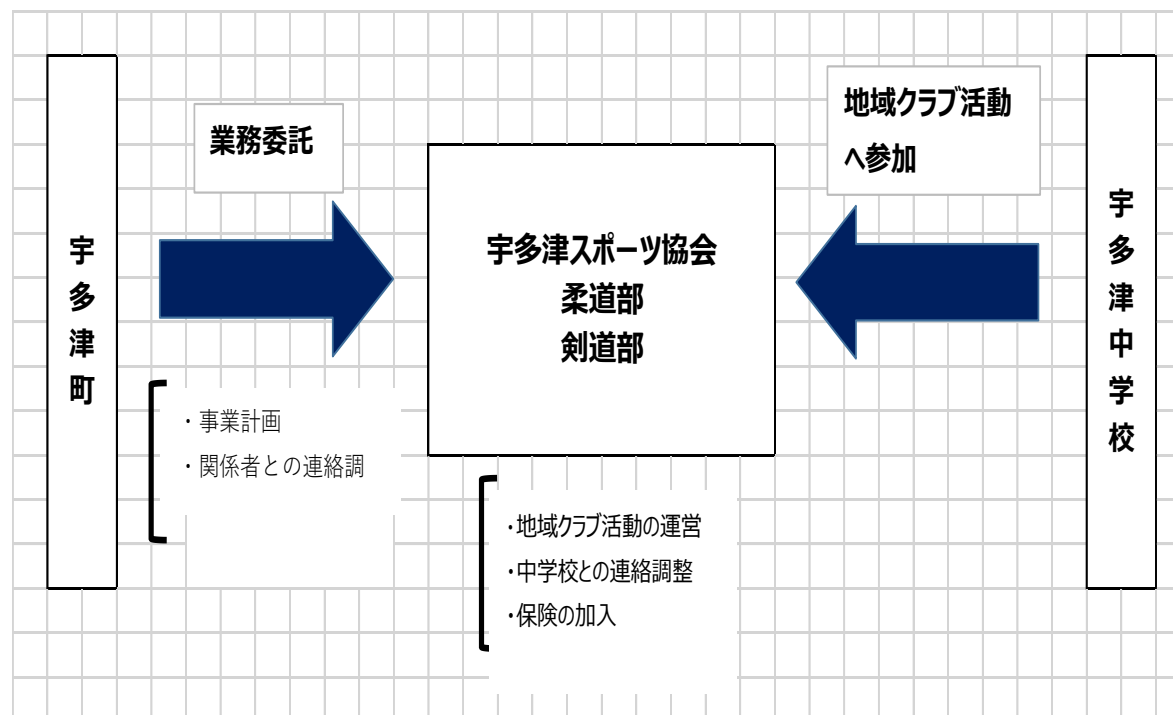
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	柔道・剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	2部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	宇多津中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	柔道・剣道
運営主体名	宇多津スポーツ協会 柔道部・剣道部
運営類型	地域スポーツ団体等運営型（体育・スポーツ協会運営型）
1か月あたりの平均的な活動回数	柔道：月1.3回程度 剣道：月2.3回程度
指導者の主な属性	宇多津スポーツ協会
活動場所	デュアル・スポーツセンター
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・コーディネーターの配置により、中学校・関係団体との連絡調整、指導助言等を行う。
- ・関係者会、協議会を開催して、情報共有や課題の検討を行う。

取組の成果

- ・休日の地域移行をした柔道部・剣道部の部員加（1・2年生）17人を対象としたアンケートの結果、16名が回答した。回答者の80%が、顧問以外の人への指導も受けることができるとの、肯定的な意見が多かった。
- ・学校運営協議会で、部活動の地域移行の現状や進捗状況について報告したり、意見をいただいたりすることで、少しずつ地域移行のことが広がっている。また、新たな地域クラブの立ち上げにつながった。（ダンス部）

特に工夫した事項

町の部活動地域移行担当者とコーディネーターが、地域移行を実施している柔道部・剣道部の練習を訪問し、地域の指導者と綿密に連携をとり、信頼関係を構築する。

今後の課題と対応方針

- ・一層、地域クラブの指導者との交流を深め、さらなる充実につなげていく。
- ・今年度の活動を通して出てきた課題（試合の引率・欠席連絡の方法等）の解決に向けて、関係者との協議を積極的に進めていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・委託団体、その他スポーツ少年団等の既存団体と協議することで連携を図り、運営団体・実施主体や指導者の確保に努める。
- ・他市町との合同部活動（野球部）について、他市町教育委員会と互いの情報共有や課題の検討を行う。

取組の成果

- ・スポーツ少年団の代表者と中学校、教育委員会とで、部活動の休日の地域移行について協議できたことは、互いの現状がわかり、今後のそれぞれの活動についての課題を共有し合うことができ、休日の地域移行を考えていくうえで有意義なものとなった。
- ・今後、他市町と合同チームである野球部の休日の地域移行に向けて、他市町と協議したことで、顧問以外の本町の外部指導者を入れることにつながり、地域移行への第一歩となった。



特に工夫した事項

- ・スポーツ少年団の代表者や中学校、教育委員会とで打合せ会を行い、部活動の休日の地域移行について協議した。
- ・野球部について、合同チームを編成している他市町の教育委員会と今後の運営について協議した。

今後の課題と対応方針

- ・今年度、すぐにスポーツ少年団との連携の合意には及ばなかったものの、今後、スポーツ少年団と中学生との交流イベントについて計画する。
- ・他市町との合同部活について、これからも密に教育委員会同士も連携していく。

・ 2. 実証内容と成果

参考資料 (活動写真)



【柔道部】



【柔道部】



【剣道部】



【剣道部】

・ 2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 宇多津スポーツ協会
宇多津町スポーツ少年団

●経過

令和4年11月の宇多津スポーツ協会・宇多津町スポーツ少年団の役員会において、教育長より中学校部活動の地域移行について協力を要請した。

●実施にあたって生じた課題

引き受けてくれる団体がほとんどなく、スポーツ協会の柔道部と剣道部のみが、引き受けてくれた。

●実施内容、工夫した点 等

・3月①に前段階として柔道部と剣道部の代表者と打合せを行い、今後のスケジュール案や委託経費等について協議する。

・3月②に中学校の校長も加わり、令和5年度よりモデル事業として柔道部と剣道部の休日の地域移行を実施すること、コーディネーターをおくことを伝える。

- 宇多津スポーツ協会
柔道部・剣道部

●経過

令和5年4月～5月に、コーディネーターも加わり、部活動地域移行に係る検討会を実施。保護者説明会を実施。

●実施にあたって生じた課題

・教育委員会側が中学校の部活動の状況や、中体連のルール等について十分把握できていないこと。

・国や県の動向が十分につかめていないこと。

●実施内容、工夫した点 等

・部活動のスケジュール、緊急連絡体制や保険のこと、鍵の管理のこと、保護者会等について、当面の課題について細かく洗い出していた。

- 宇多津スポーツ協会
柔道部・剣道部

●経過

令和5年8月頃より、休日の地域クラブ活動を開始。

●実施にあたって生じた課題

・休日の地域クラブ活動の練習場所であるデュアル・スポーツセンターが空調工事のため、総体後すぐに練習が実施できなかった。

●実施内容、工夫した点 等

・柔道部と剣道部の部員の多くはスポーツ協会の柔道部と剣道部に所属していたこともあり、地域クラブ活動に移行前から、指導者とは馴染みがあり、スムーズな移行となった。

・ 3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

宇多津町教育委員会 部活動休日の地域移行スケジュール

	年度	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
	テーマ	調査・研究（実証事業）	調査・研究（実証事業）	地域移行試行	地域移行本格実施
事業内容		○コーディネーター配置	○前年度からの継続実施	○本格実施に向けて方針決定	○休日の完全な地域移行
		○柔道部・剣道部について 実証事業実施	○他市町と合同部活動以外の 運動部・吹奏楽部について 実証事業実施	○前年度からの継続実施	
		○部活動方針改定	○教師の兼職兼業手続き	○受益者負担及び生活困窮者 世帯への補助制度整備	
		○規程・基準等の検討・整備	○受益者負担及び生活困窮者 世帯への補助制度検討		
		○学校部活動以外の地域クラ ブ活動の実施（ダンス部）			
		○地域移行の拡大にむけて関 係団体との連携協議			

【香川県琴平町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	香川県琴平町
担当課名	生涯教育課
電話番号	0877-75-6715

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	7857 人	部活動数	12 部活
公立中学校数	1 校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	163 人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定しない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

琴平町内には1校の中学校がある。人口減少や少子化の影響を受け、平成の始めには全校生徒数600人程度が在籍していたが、現在は160人ほどまでに減っている。1校であるため、町内では合同部活動の仕組みを作って部員数を増やすことはできない。団体競技では人数が揃わない状態で試合に参加したり、大会に参加できずに部活動を終える生徒も出てきている。

令和5年度、琴平中学校の部活動数は12ある。団体競技は軟式野球、サッカー、バレーボール、バスケットボールがあり、その内、サッカー、バレーボール、バスケットボールの3競技は試合ができる人数に達していない。さらに、3年生の部活動引退を機に廃部になった部活が1つ。吹奏楽部においても町の演奏会に人数不足で参加できない事態にもなっている。

この状況を解消するためには、他市町の学校と合同部活動を行う、中学校内で部活動を編成し直す、地域移行をして他市町の生徒と活動を共にする環境を作る等が考えられる。今度も少子化の傾向は続いており、ますます存続できない部活動が増えてくることは間違いない。早急の対応が迫られている。

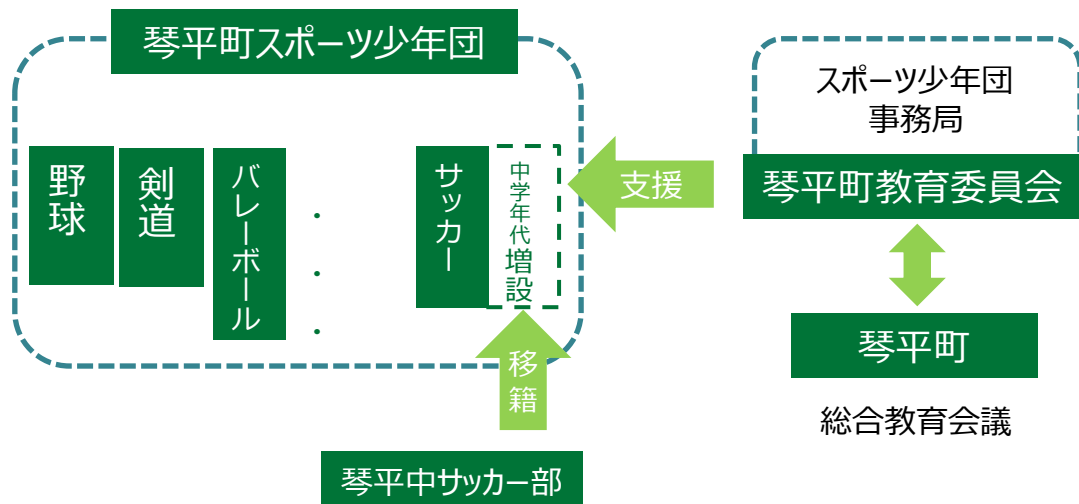
3年生引退後の状況

部活動名	人数	状況
野球	11	△
サッカー	10	×
バレー女子	4	×
バスケ女子	3	×
なぎなた	0	×
剣道	3	△
ソフトテニス男子	7	○
ソフトテニス女子	8	○
卓球男子	10	○
バドミントン女子	10	○
吹奏楽	13	△
美術	23	○

・ 2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（生涯教育課）

運営主体との連携を図り、地域クラブ立ち上げまでの支援を行う。町内にあるスポーツ施設や学校と相談しながら場所の確保等を行う。活動に必要な物品の購入を行い運営主体に提供する。

● 首長部局（企画防災課）

教育総合会議を執り行い、現状を報告しながら幅広く関係者の意見を聞く。

年間の事業スケジュール

- ・令和4年度にスポーツ少年団関係者から地域移行の要望聞き取り。
- ・令和5年度4月、町長・教育長の連名で部活動地域移行推進の旨を中学校保護者向けに通知する。
- ・検討会を行い、現状の把握と今後の可能性について検討を行う。
- ・クラブ指導者として予定している人に、中学校部活動の外部コーチとして指導してもらい、生徒との関係をつくる。

- ・中学校部活動の受け皿として既存のスポーツ少年団を拡充し、中学生年代チームを新設することを決定する。
- ・活動に必要な物品の購入を始める。
- ・可能な日に、地域クラブとして活動を行う。
- ・保護者会にて、学校、保護者、教育委員会で協議を行う。
- ・次年度4月より新チームを登録し、本格的な活動を開始する。
- ・次年度7月より主の指導者が代わり、完全に地域クラブに移行する。

・ 2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

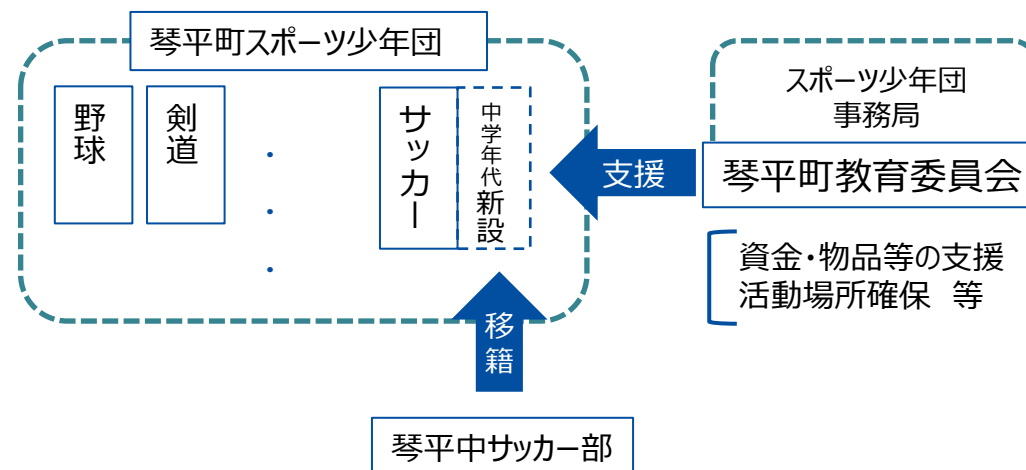
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	琴平中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営主体名	スポーツ少年団
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (体育・スポーツ協会運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月4回程度 次年度は21回を予定
指導者の主な属性	スポーツ少年団コーチ
活動場所	町内スポーツ施設 及び 琴平中学校運動場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：0円 移行期間中は会費0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



・ 2. 実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

町内には小学生を中心に活動するスポーツ少年団がある。そのスポーツ少年団の中学生年代が活動できるチームを新設する。琴平中学校サッカー部は廃部にし、新たにスポーツ少年団新チームで活動する。サッカー協会にも登録をし、地域クラブ枠のカテゴリーで大会等に参加できるようにする。指導者は新たに探すのではなく、スポーツ少年団のコーチに担ってもらう。町内スポーツ少年団であるため、事務局が教育委員会内にあり、代表者や指導者との連絡は取りやすい状況にある。

取組の成果

今年度は中学校部活動をする中で、何日か日を決めて地域クラブとして活動を行った。指導者は部活動のコーチとして指導をしてもらっていることもあり、生徒との関係は良好。地域クラブ枠でサッカー協会に登録することができ、中体連主催の大会にも、サッカー協会主催の大会にも出場する資格を得ることの確認ができた。ただ、サッカー協会では2団体以上への選手の二重登録はできないため、今年度はサッカー部として登録したまま試合等に出場し、次年度4月に琴中サッカー部から新チームへの登録をして活動することになる。既存のスポーツ少年団であるため、立ち上げに労力はほとんどなく、代表者や指導者との連絡も取りやすい。また、指導者はこれまでのスポーツ少年団の指導経験があり、新規の指導者育成にはならないところに利点がある。

特に工夫した事項

移行時期の決定に課題があった。新入生や他市町からの生徒の参加を考えると、地域移行と指導者の交代を4月にすべきところであるが、3年生の部活動引退が7月になるため、指導者の交代は3年生引退後とすることにした。その間、クラブコーチには部活動の外部コーチとして指導に当たってもらい、スムーズな引継ぎのための指導期間とした。

	1月	4月（移行）	8月
チーム登録	サッカー部として更新登録	地域クラブとして新規登録	-
地域クラブへの移行	部活動（数回地域活動）	地域クラブへ（移行期間）	地域クラブ（移行完了）
指導者の交代	主：部活動顧問 クラブコーチが補助	主：部活動顧問 クラブコーチが補助	主：クラブコーチ 部活動顧問が補助

今後の課題と対応方針

スポーツ少年団が大きくなったことのメリットとデメリットの検証と生徒や保護者、指導者にとってストレスの無いスムーズな移行をしていくための手立てを検証していく。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

部活動地域移行の概要

- 琴平中学校サッカー部を地域クラブに移行する
- 地域クラブを新設し、サッカー部の受け皿とする
- 町はサッカー部から地域クラブへの移行を支援する

学校部活動 → 地域クラブ

新設に向けて支援

琴平町教育委員会

地域クラブの概要

- スポーツ少年団（小学生） → スポーツ少年団中学生の部 拡大



- クラブの代表者はスポーツ少年団の代表者
- 指導者はスポーツ少年団コーチの中から中学生の部の代表

地域クラブの概要

指導者
地域の指導者
教員の兼職兼業

場所
いこいの里公園グラウンド
(琴平中グラウンドも)

費用
受益者負担

時間
平日の放課後16時30分から
休日も

部員
元琴平中サッカー部員
近隣市町の中学生
小学生も可能

カテゴリー
地域クラブチーム枠
中体連やサッカー協会の大会に出場可
クラブチームの大会は出場不可

本年度の成果と課題

- 地域クラブのチーム登録や物の準備ができた。
- 可能な日程で活動ができた。
- 今年度は完全な移行ができておらず、来年度からになる
- 地域クラブへの移行の時期
 - 本年度8月を目標にしていたが、チーム登録や保護者への周知の関係で今年に入って徐々に進めた。
 - サッカーのチーム登録が1月
 - 選手の代替わりは7月～8月
 - 他市町の中学生（新1年生）が入るタイミングは4月



琴平に新サッカークラブ設立

USK

一度しかない中学時代に熱いサッカーを!

チームメンバー大募集!

UPSET活動理念

努力・感動・感謝

毎日努力が試合での感動を生み、その感動が仲間や応援してくれた人達への感謝へ変わる!

中学サッカーの活躍につながるように!

後の人生での活躍につながるよう!

活動理念を基にチーム力と人間力を育てます!

ユニフォーム

【協議会等で使ったプレゼン資料の一部】

【募集チラシ】

・ 2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【クラブコーチと教員との指導】



【双方向からクラブコーチと教員の指示】

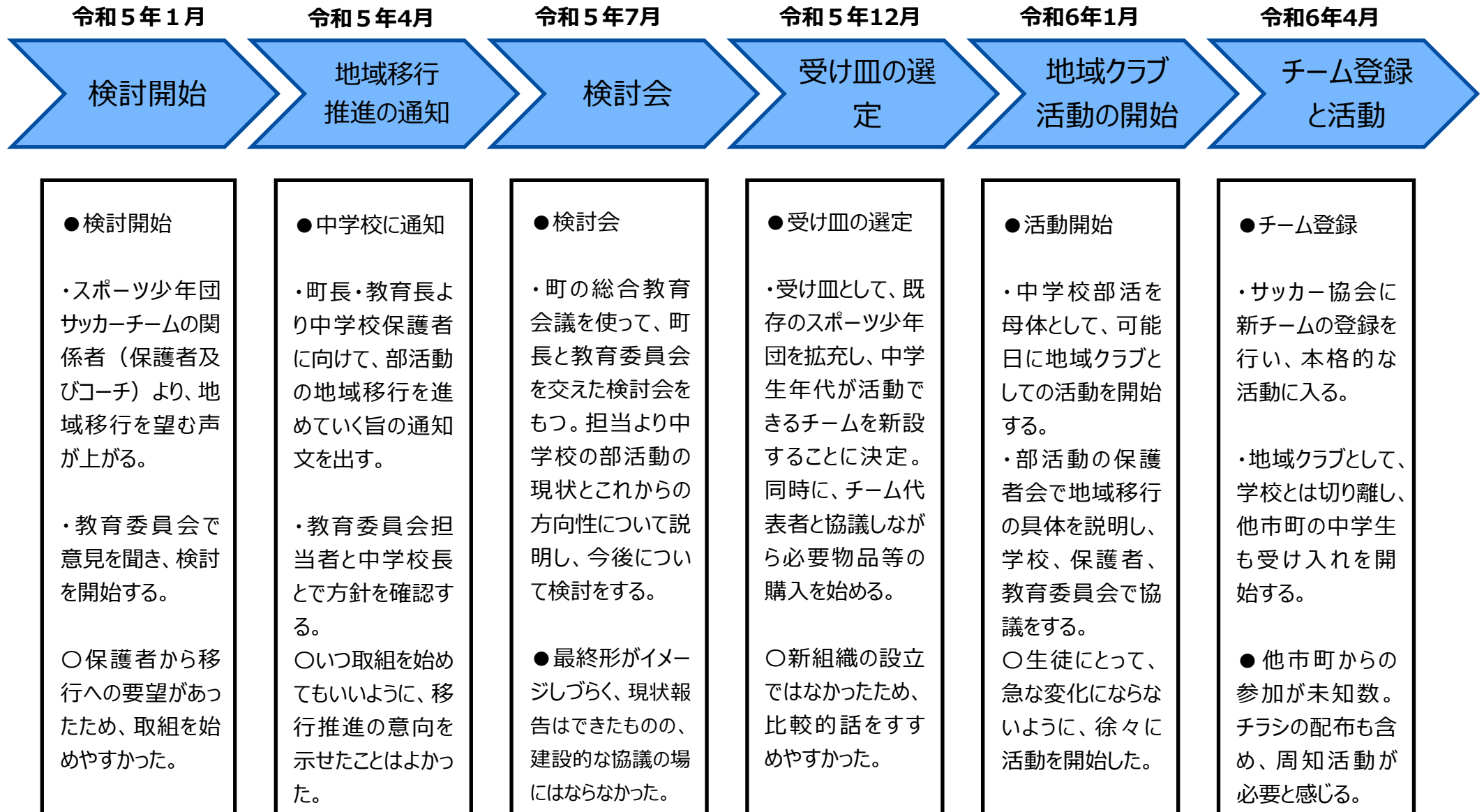


【練習後のミーティング】



・ 2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
琴平中学校			サッカー 外部指導者	ソフトテニス部 外部指導者	部活動編制 剣道部	
<div style="border: 2px solid #008080; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;"> 地域の指導者を入れながら移行への土台作り </div>						
モデル事業	吹奏楽 実証事業		サッカー 実証事業	サッカー 実証事業		
教育委員会				協議会設立 スポーツ少年 団との連携	総合型地域 スポーツクラブ との連携	他市町との 連携
				<div style="border: 2px solid #008080; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;"> 協議会で幅広い見地から、今後の在り方について協議する。サッカースポーツ少年団の運営の在り方を検証し、他団体の可能性を探る。 </div>	<div style="border: 2px solid #008080; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;"> 町内にある総合型地域スポーツクラブと連携を図り、今後の可能性を探る。 </div>	<div style="border: 2px solid #008080; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto; width: 80%;"> 近隣市町の状況を見ながら、広域での取り組みを想定して、今後の在り方を協議していく。 </div>